

この本を薦めます

学会誌編集委員長 佐々木 葉

第1回

小野武彦

土木学会第100代会長

新連載「この本を薦めます」では、土木学会・土木界のさまざまな方からご紹介いただいた本を編集委員長の佐々木がお伝えしていきます。本を通じて人と知への興味のネットワークが広がれば幸いです。初回は、会長にご登場いただきます。

3

冊程度をご紹介くださいとお願いたしましたところ、これは3冊

で1セットと示されたのが、太平洋戦争の敗戦の理由を問うものであった。小野会長のお父様は海軍の下士官で1944(昭和19)年3月21日にニューギニアで戦死されている。片道燃料を積んでの出航を、大船渡港でそつと見送られた奥様のおなかの中に会長はおられた。

『日本海軍400時間の証言』は



2009年に放映された同名のNHKの番組の記録。戦後、旧海軍士官が百数十回の会合を重ねて語ったその録音が伝えるもの。自ら反省会と称した場では、開戦、特攻、戦犯裁判における組織防衛や間違いを正せなかった事実が当事者の声として搾り出されている。『失敗の本質』では、6名の大学教授が資料をもとに組織論の立場から失敗の要因分析を試みる。ノモンハン事件から沖縄戦までの六つの局面の具体的分析を基に失敗の要因が端的にまとめられている。環境に対して自らの目標と構造を主体的に変えることができる自己革新組織の原則が、日本軍にはなかった。それは人材教育、分権、統合といったシステムが欠落していたためである。一方『散るぞ悲しき』は、こうした問題のありすぎる組織のもと、戦地で全力を尽くした高邁で優秀、あ

わせて情の熱い個人を描いたドキュメントリーである。会長は、個人としては素晴らしいにもかかわらず組織となると誤った選択を許してしまう、そのコントラストをこの3冊に見ながら、現在にも通じるその傾向への戒めとされている。

2点目は『新訳』論語。組織の上立つ方々が語る言葉に故事箴言を引用することは珍しくない。そのためスタディにハンディで読みやすい本書はお薦めということであろう。会長のお父様が読んでいた見出しの一例は、「敵がない人物は頼りない」、「過ちを改むるに憚ることなかれ」など。

3点目の『浅草のおんな』は、主人公の小料理屋の女将のような女性がお好

みなのかと思いきや、単なる人情話だといってしまうばそれまでだが、そこで交わされる会話の大切さを考えてのご推薦であった。赤の他人が小料理屋で交わす何気ない会話の背景にどれほど広く深い人の暮らしの一端が覗いているか。もつと周囲の人に興味を持ち、ちよつとした会話をたくさん交わしていれば、いま世間で起きている悲しい事件はずっと減るのではないかと。

以上3種の本を紹介いただいた。現場での一人ひとり、一つひとつの出来事を丁寧にとらえ、そして人の情を汲み上げていくこと、同時に自己や状況を冷静に俯瞰してみる。そんな会長のまなざしがお薦めいただいた本を読んで伝わってきた。



日本海軍 400時間の証言
軍令部・参謀たちが語った敗戦
NHK スペシャル取材班：新潮社



失敗の本質
日本軍の組織論的研究
戸部良一・寺本義也・鎌田伸一・杉之尾孝生・村井友秀・野中郁次郎：中央公論新社



散るぞ悲しき
—硫黄島総指揮官・栗林忠道—
梯久美子：新潮社



[新訳] 論語
自分の生き方の基軸をつくり上げるための百言百語
久米旺生編訳：PHP 研究所



浅草のおんな
伊集院静：文藝春秋